

	課題分析	授業改善策
国語	<p>①令和5年度全国学力・学習状況調査の結果は、概ね東京都・全国を上回っている。ただし、「B 書くこと」で自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する設問の正答率は32.1%となっている。</p> <p>②学習への意欲は高く、自分の考えをすすんで発表する児童が多いが、友達のと比べて自分の意見を見つめ直すまでには至っていない。また、漢字の定着状況にも課題がある。</p>	<p>①児童自身の気付きによって、書くことにおける「よい文章」の構成要素などを抽出できるよう、文例等の作り方や示し方を工夫する。また記述後には、その気付きを基に文章を読み返させることで、振り返りの質を高めさせる。</p> <p>②単元や1単位時間の活動を工夫し、友達と交流して学び合う場を計画的に設けていく。漢字においては定期的に小テストを実施することと、宿題で間違えた文字を直すなど粘り強く取り組む習慣を身に付けさせる。</p>
社会	<p>①社会的事象について、正しい知識を受容することやインターネット等を活用することについては、意欲が高い反面、複数の資料を正しく読み取り、関連付けて考えることについて課題がある。</p> <p>②学年によっては、調べ学習にはすすんで取り組める児童が多い実態も見られるが、国の名称や位置などの基本的な知識の定着には課題がある。</p>	<p>①授業の展開において、生活場面を振り返りながら問題意識を喚起したりするとともに、その根拠となるのは資料のどの部分から読み取ることができるか指導する時間を意図的に設定する。</p> <p>②授業において児童が調べた資料を活用することで、学習意欲を高める。その上で、読み取りの要点を絞ることで基本的な知識の定着を図るようにする。</p>
算数	<p>①令和5年度全国学力・学習状況調査の平均正答率や中央値は東京都・全国とほぼ一致している。問題に対して既習事項を活用して解決できる児童が増えてきているが、筋道立てて説明することが課題である。</p> <p>②四則演算や公式を用いた問題解決は概ねできている。問題場면을立式することができるが、式の意味を図や言葉で説明したり既習内容を活用して解決したりすることが課題である。</p>	<p>①知識・技能を定着させるために、適宜、計算練習や作図の反復練習を行う。タブレットを活用して、自分の考えを説明させたり友達のを読み合ったりする活動を取り入れる。</p> <p>②既習内容を児童自ら想起できる問題を提示する。問題場面の数量関係を正しく捉えさせるために、図で例示したり言葉の式を示したりする。式に単位を付け加える等、式の意味を理解させる。</p>
理科	<p>①「問題づくり」や「予想」の過程で既習の内容や生活経験を基に自分の考えを表現する場面で、主体的に取り組めない児童がいる。</p> <p>②理科で学習したことと生活の中の事象が結びつかないために、実験結果を自分の言葉で考察できない児童がいる。また実験を行う際の条件の制御について、理解ができていないため、問題を解く際に学習したことを生かせない児童がいる。</p>	<p>①ペアやグループ等での協同的な活動を計画的に取り入れ、実験・観察の結果だけでなく、対話を通して考えることで、これまでの生活経験を想起させるなど、対話的な活動を充実させることで、学習内容をより深く学べるようにする。</p> <p>②生物や植物の成長や事象の変化（インゲンマメの発芽と成長等）の条件の制御について、ICTを活用して記録し、結果のまとめと考察を生活の中の事象と関連させながら振り返りをさせる。</p>

生活	<p>①観察をする際に気付いたことを言葉で表すことが難しい児童がいる。</p> <p>②活動による気づきを基に次の活動を構想したり学んだことを他教科の学習や生活に生かしたりする力を更に伸ばしたい。</p>	<p>①観察の際に、具体的な観点を示すようにする。また国語との教科横断的な指導を行い、表現するための語彙を計画的に増やしていく。</p> <p>②活動の振り返りを行う時間を設けて気づきを交流したり、児童の気づきを生かして次の学習活動を設定したりするようにする。また他教科や行事とのカリキュラムマネジメントを行い、学んだことを活用する場を設けたり、生活に生かしている姿を紹介したりする</p>
音楽	<p>①キーボードやリコーダーなど楽器の運指に課題のある児童がいる。また授業内での楽器等の準備、片付けに時間がかかる。</p> <p>②音楽に興味をもち意欲的に取り組む姿が見られ、音楽表現を工夫したり、伝え合い学び合ったり姿が見られた。一部に気持ちの切替ができず時間がかかってしまう児童がいる。また、苦手意識からなかなか思い切って発表できない児童もいる。</p>	<p>①様々な楽器に触れる経験を増やし、友達と協力して音楽を表現する喜びや面白さを味わわせる。また授業の始めに展開の流れを示し、準備、片付けの時間を効率化させる。</p> <p>②授業の中で失敗を恐れない雰囲気づくりをする。また肯定的な声掛けを意識的に行い、明示的なめあての提示と併せて、児童が「一つはできた。」と感じられるような授業づくりをする。</p>
図画工作	<p>①用具や材料に関する経験は個人差が大きく、技能面で個別支援が必要な児童がいる。</p> <p>②友達や異学年の作品に関心をもち、自分の見方や感じ方を広げている。一方、少数だが発想で躓く児童がいる。</p>	<p>①初めて使う道具や材料は、動画や実物投影機を活用し、使い方を具体的にイメージできるようにする。</p> <p>②計画的に作品展示をして活動への意欲を更に引き出す。発想で躓く児童には、ヒントになる画像を見る、友達の発想を聞くなど、導入を工夫する。造形遊び的な要素を取り入れた題材を開発する。</p>
家庭	<p>①教科内容に対しては、大変関心をもって学習している。一方で、全体的に、知識と技能の個人差が大きい。特に裁縫に関する技能面の個人差がある。</p> <p>②家庭での経験差が原因と考えられる、調理に関する知識と技能の個人差が大きく見られる。</p>	<p>①教師の手本や映像を活用し、知識と技能の習得につなげる。技能面を伸ばすために、全体指導と個別指導を効果的に行う。</p> <p>②学習後の家庭実践の場を活用し、家庭とねらいややり方を共有した上で、ICTでその様子を交流したり、全体指導と個別指導を効果的に行ったりする。</p>
体育	<p>①様々な運動を楽しみながら行い、技能を身に付ける児童が多い。繰り返し練習を積み重ねることが苦手な基本的な動きや技能が身に付いていない児童も見られる。</p> <p>②コロナ禍の学習スタイルの影響で、友達と関わり合いながら学習する経験が少なかったため、チームやグループでの練習や教え合いに慣れない児童が見られる。</p>	<p>①様々な運動を行い各種の楽しさに触れさせ、発達段階に応じた運動能力を身に付けさせる。児童同士でもアドバイスできるようにさせるために、技のポイントを丁寧に伝える。</p> <p>②友達と関わり合って運動する楽しさを感じられるよう、児童同士で称賛したり教え合ったりできるように、練習の仕方や技のポイントについてタブレット端末等を活用して分かりやすく伝える。</p>

<p>外国語</p>	<p>①外国語の音声や表現に慣れ親しみながら学習している児童は多いが、外国語を「難しい」と感じ始めた児童も見られるようになり、個人差が大きい。</p> <p>②基本的な語彙を知っている児童も多く習熟の個人差は大きい。そのため、特に語彙などが身に付いていない児童が理解しながら、楽しく活動できるような工夫が必要である。</p>	<p>①外国語を何度も聞かせたり発話させたりする機会を設け、自信をもって話せるようにする。またデジタル教科書を活用し、映像や音で学習できるようにする。</p> <p>②タブレットで学習内容を見返し、繰り返し学習することで基本的な語彙に親しめるようにする。また、児童がより楽しみながら外国語に親しめるような活動を授業時間内、またそれ以外の場でも設定する。</p>
------------	--	--